

日 本 大 学
生物資源科学部

校友会会報

2026 年(令和 8 年) 第79号



生物資源科学部本館

《目 次》

会長挨拶.....	2	桜水会（海洋生物資源科学科）.....	14
令和 8 年度総会・懇親会	3	工学会（生物環境工学科）.....	15
令和 7 年度校友会収支決算書	4	F T 会（食品生命学科）.....	16
令和 8 年度校友会収支予算書	5	拓友会（国際地域開発学科・国際共生学科）.....	17
校友だより（富獄会）.....	6	応用生物科学科校友会（応用生物科学科）.....	18
校友だより（紫友会）.....	7	くらしの生物学科校友会（くらしの生物学科）.....	19
校友だより（角笛会）.....	8	支部だより（宮城県支部）.....	20
富獄会（生命農学科）.....	9	支部だより（山形県支部）.....	21
紫友会（生命化学科）.....	10	支部だより（神奈川県支部）.....	22
角笛会（獣医学科）.....	11	校友会の思い出（満喜葉会前会長）.....	23
いもづる会（食品ビジネス学科）.....	12	校友会からのお知らせ.....	24
あすなろ会（森林学科）.....	13		

校友会会報 第79号発刊にあたって

生物資源科学部校友会 会長

鳥海 弘

(昭和50年 獣医学科卒)

日本大学生物資源科学部校友の皆様におかれましては、益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。また、平素より校友会活動に多大なご協力を賜り、心より御礼申し上げます。近年、酷暑をはじめとする自然災害や、不安定な国際情勢に伴う生活への影響など、先行きが不透明な状況が続いております。そうした中におきまして、本学部校友会におきましては、皆様のお力添えにより予定していた事業を順調に遂行することができました。

令和8年度の生物資源科学部校友会通常総会は、7月11日に多くの会員の皆様ご出席のもと開催いたしました。総会では報告7件・審議3件のすべての議案についてご承認をいただくとともに、大変活発なご意見を賜りました。頂戴した貴重なご意見は、今後の校友会活動を推進する上での確かな指針とさせていただきます。

総会終了後には懇親会を学食棟にて開催いたしました。会に先立ち、11万人を超える学部校友の中から、会の発展に大きく貢献された個人6名・1団体の皆様に表彰させていただきました。受賞された皆様には心よりお祝い申し上げますとともに、今後の更なるご活躍をお祈り申し上げます。懇親会には、日本大学理事長の関泰一郎様、学長の大貫進一郎様、本部事務局事務長の金澤宏昭様をはじめ、他学部校友会長、都道府県支部長・桜門会関係の皆様、学

部執行部、附属校の校長先生方など、総勢31名ものご来賓にご臨席いただき、100名を超える出席者とともに和やかなひとときを過ごすことができました。これほど多くの方々にお集まりいただけることは「日本一の総合大学」たる本学の強みの表れであり、校友会にとっても大変大きな励みとなります。今後もこの強みを活かし、さらなる組織の充実と発展に努めてまいります。

さて、現在本会運営における最大の懸案事項は「将来の財政基盤」でございます。本年7月10日の日本大学校友会役員総会におきまして、林真理子前理事長が新校友会長に選任され、今後の資金方針が示されました。学部校友会への還付金につきましては、令和8、9年度までは現行の50%が維持されますが、令和10年度より現行の代理徴収制度が廃止され、卒業時に5年分の正会員費(40,000円)を一括徴収する制度へ変更されます。これにより、本部から本会への還付金は約半減すると試算されております。

独自会費を持たない本会にとりまして、還付金の削減は今後の予算編成および事業活動に極めて深刻な影響を及ぼします。しかしながら、こうした厳しい状況下だからこそ、本会では次世代への「将来への投資」として、在校生(準会員)に向けた事業の充実に重点を置いております。分会活動などを通じて在校生に校友会への関心を持っていただき、卒



業後の積極的な参加へと繋げていく方針を、今後も愚直に継続してまいります。

また、令和5年4月の学部改組(12学科から11学科へ)に伴い、既存の12分会+1準分会の再編も喫緊の課題です。特に再編対象となる6分会(富嶽会、紫友会、満喜葉会、工学会、応用生物科学部校友会、くらしの生物学科校友会)の継承、および新設5学科(バイオサイエンス、動物、環境、アグリサイエンス、獣医保健衛生)の校友会分会設立に向け、新卒業生が社会へ羽ばたく今年度中に確実な解決策を見出してまいり所存です。

デジタル化が進む現代におきましても、紙面としてお届けする『校友会報第79号』が、改組された学部の現況や各分会の活動を届ける架け橋となれば幸いです。「学生・教職員・学部・校友会」が固い絆で結ばれた総合大学ならではの強みを結集し、会員相互の親睦と母校の発展、そして社会貢献に寄与できるよう、皆様の積極的なご参加とご協力をお願い申し上げます。

末筆ではございますが、校友の皆様のご健康と今後のますますのご活躍を心より祈念いたしまして、巻頭の挨拶とさせていただきます。

令和 8 年度日本大学生物資源科学部校友会通常総会及び懇親会の報告について

令和 8 年度の通常総会及び懇親会は、令和 8 年 7 月 11 日（土）に以下のとおり開催しました。

○通常総会

通常総会は、日本大学生物資源科学部本館 14 階 NU ホール A において 68 名の会員にご出席をいただき、鯉江幹事長が午後 1 時 30 分に開会宣言、議長に工学会会長で学部校友会副会長の酒川会員を選出、議事録署名人に「富嶽会の長島会員」と「あすなる会の阿部会員」を選任し、開催しました。内容は、以下のとおり「報告事項 7 件の報告」、「承認事項 3 件の審議」を行いました。

1 報告事項

- (1) 会長及び副会長の就任
- (2) 幹事長の就任
- (3) 分会選出幹事の交代
- (4) 令和 7 年度事業報告
- (5) 令和 7 年度収支決算報告
- (6) 令和 7 年度末財産目録
- (7) 令和 7 年度定例監査結果報告

定例監査の結果報告は、野村監査役から令和 7 年度の監査対象である令和 6 年度の事業計画の執行状況と決算報告について以下のとおり監査結果報告がありました。

- (1) 事業計画執行状況の監査結果
事業報告および附属明細書は、

本会会則および諸規程に従い適正に運営されていると認めます。しかし、在学生在が留年生だけとなった 7 分会および令和 9 年 3 月に第 1 期生が卒業する分会未結成 6 学科の今後の処遇に付いて早急に対処をお願いします。

(2) 決算報告書等の監査結果

帳簿等の集計整理、財務諸表、決算報告書の内容および作成の方法について厳正に監査を実施した結果、厳正に処理してあることを認めます。

(3) 最近 3 年間を通した監査後の所見

日本大学校友会における準会員会費徴収を廃しすることに対して、本学校友会の在り方について、委員会を設置して検討することをおすすめします、同時に、令和 6 年度の定例監査にもご報告しましたが、5 委員会を再編して学部校友会の情報宣伝を含む活性化の検討をおすすめします。

2 承認事項

- (1) 会則の一部改正（案）
- (2) 令和 8 年度事業計画（案）
- (3) 令和 8 年度収支予算（案）

事務局の説明、質疑応答後に採決が行われ、3 案とも賛成多数で承認されました。

審議終了後酒川議長は議長を辞し、

鯉江幹事長が閉会宣言し、令和 8 年通常総会は、午後 3 時 45 分に閉会しました。

○懇親会の開催

午後 4 時から学部食堂棟 3 階において、鯉江幹事長の司会進行で開始しました。

懇親会に先立ち、校友会の名誉を高めた 6 名の個人と 1 団体を表彰しました。

懇親会には、来賓として関泰一郎日本大学理事長、大貫進一郎日本大学学長、金澤宏昭日本大学校友会事務長、他学部校友会会長・副会長 14 名、都道府県支部長 2 名、桜門会会長、磯部勝孝生物資源科学部長代理以下学部執行部から 6 名、付属小学・中学・高等学校の校長先生及び会員 70 名の総勢 100 名の方々にご出席をいただきました。

校歌斉唱、鳥海 弘学部校友会会長の挨拶、来賓のご挨拶の後、酒川副会長の乾杯の発声で懇親会は始まりました。

例年どおり、学科校友会毎にテーブル席を設け旧交を温めていただきました。

約 2 時間の懇親会もあっという間に過ぎ、北原副会長の閉会の辞で令和 8 年度の懇親会は終了しました。



総会



懇親会

令和7年度 日本大学生物資源科学部校友会 収支決算書

(自 令和7年4月1日 至 令和8年3月31日)

日本大学生物資源科学部校友会

(収入の部)

(金額単位：円)

科 目	令和7年度予算 (A)	令和7年度決算 (B)	予算と決算との 比較 (C=A-B)	摘 要
1 前 年 度 繰 越 金	39,717,604	39,717,604	0	
2 会 費 収 入	33,295,000	34,750,000	▲ 1,455,000	
1) 準 会 員 還 付 金 収 入	32,280,000	33,980,000	▲ 1,700,000	準会員 6,796名 × 5,000円
2) 正 会 員 補 助 費 収 入	1,015,000	770,000	245,000	正会員 110名 × 7,000円
3 寄 附 金 収 入	0	0	0	
4 祝 金 等 収 入	1,000,000	820,000	180,000	懇親会会費、祝い金
5 雑 収 入	10,000	68,017	▲ 58,017	預金利息等
当 年 度 収 入 合 計	34,305,000	35,638,017	▲ 1,333,017	
収 入 合 計	74,022,604	75,355,621	▲ 1,333,017	

(支出の部)

(金額単位：円)

科 目	令和7年度予算 (A)	令和7年度決算 (B)	予算と決算との 比較 (C=A-B)	摘 要
1 分 会 交 付 金	15,995,000	10,193,000	5,802,000	学科校友会のある学科
2 経 常 費	10,710,000	8,971,076	1,738,924	
1) 人 件 費	5,300,000	4,940,000	360,000	事務局勤務者給与
2) 本 部 分 担 金	340,000	340,000	0	日本大学校友会本部に対する支部会費及び委員会費
3) 事 務 局 運 営 費	1,300,000	1,052,055	880,269	コピー機リース料、その他事務消耗品等に係る諸経費
4) 通 信 費	1,400,000	1,285,348	114,652	分会の会報発送費の一部支援、その他発送費
5) 会 合 費	500,000	179,675	320,325	幹事会、執行役員会、各種会合等に係る諸経費
6) 交 際 費	1,000,000	550,276	449,724	分会、県支部、他学部校友会等の総会・懇親会祝金等
7) 旅 費 交 通 費	800,000	571,450	228,550	通勤費、出張旅費、運営補助費(5委員会分は除く)
8) 支 払 手 数 料	70,000	52,272	17,728	銀行振込手数料、残高証明書発行手数料
3 事 業 費	13,280,000	12,953,426	326,574	
1) 総 会 費	1,500,000	1,437,060	62,940	総会・懇親会開催諸経費
2) 広 報 費	2,000,000	1,667,790	332,210	学部校友会会報の製本印刷代、ホームページ管理費
3) 総 務 委 員 会 運 営 費	20,000	0	20,000	
4) 財 務 委 員 会 運 営 費	20,000	0	20,000	
5) 企 画 委 員 会 運 営 費	20,000	0	20,000	
6) 広 報 委 員 会 運 営 費	70,000	0	70,000	
7) 組 織 委 員 会 運 営 費	50,000	0	50,000	
8) 記 念 事 業 補 助 費	300,000	100,000	200,000	分会及び県支部の記念式典開催に伴う補助
9) 準 会 員 対 応 費	8,000,000	3,306,576	4,693,424	学部校友会が行う奨学金、行事関係補助費
10) 組 織 拡 充 計 画 費	200,000	200,000	0	宮城、山形、神奈川、高知の4支部へ活動資金の補助
11) 学 部 史 展 示 室 開 設 資 金	50,000	0	50,000	
12) ホ ー ム カ ミ ン グ デ ー 経 費	50,000	0	50,000	
13) 預 り 金	0	4,730,583	▲ 4,730,583	学科校友会のない6学科の交付金の受託残高
14) 分 会 設 立 準 備 資 金 等	1,000,000	1,511,417	▲ 511,417	学科校友会のない6学科の交付金の受託支払額
4 予 備 費	2,000,000	0	2,000,000	
当 年 度 支 出 合 計	41,985,000	32,117,502	9,867,498	
次 年 度 繰 越 金	32,037,604	43,238,119	▲ 11,200,515	
支 出 合 計	74,022,604	75,355,621	▲ 1,333,017	

令和8年度 日本大学生物資源科学部校友会 収支予算書

(自 令和8年4月1日 至 令和9年3月31日)

日本大学生物資源科学部校友会

(収入の部)

(金額単位: 円)

科 目	令和8年度 予算 (A)	令和7年度 予算	令和7年度 決算 (B)	7年度決算との 比較 (C=A-B)	摘 要
1 前年度繰越金	43,238,119	39,717,604	39,717,604	3,520,515	
2 会 費 収 入	33,214,000	33,295,000	34,750,000	▲ 1,536,000	準会員会費還付金の還付割合は1人当たり 5,000円で算出
1) 準会員還付金収入	32,325,000	32,280,000	33,980,000	▲ 1,655,000	32,325千円 ÷ (5年平均納入者 6,735人×伸び率 96%)×5,000円
2) 正会員補助費収入	889,000	1,015,000	770,000	119,000	889千円 ÷ (5年平均納入者 140人 ×伸び率 91%)× 7,000円
3 寄 附 金 収 入	0	0	0	0	
4 祝 金 等 収 入	820,000	1,000,000	820,000	0	総会・懇親会等の会費及び祝金
5 雑 収 入	10,000	10,000	68,017	▲ 58,017	預金利息等
当 年 度 収 入 合 計	34,044,000	34,305,000	35,638,017	▲ 1,594,017	
収 入 合 計	77,282,119	74,022,604	75,355,621	1,926,498	

(支出の部)

(金額単位: 円)

科 目	令和8年度 予算 (A)	令和7年度 予算	令和7年度 決算 (B)	7年度決算との 比較 (C=A-B)	摘 要
1 分 会 交 付 金	15,840,000	15,995,000	10,193,000	5,647,000	15,840千円 ÷ (8年度還付金合計 32,325千円 × 初回納入者の5年平均割合 98%)×1/2
2 経 常 費	10,710,000	10,710,000	9,001,076	1,708,924	
1) 人 件 費	5,300,000	5,300,000	4,940,000	360,000	事務局勤務者給与等
2) 本 部 分 担 金	340,000	340,000	340,000	0	日本大学校友会本部に対する支部会費及び委員会費
3) 事 務 局 運 営 費	1,300,000	1,300,000	1,082,055	880,269	コピー機リース料、その他事務消耗品等に係る諸経費
4) 通 信 費	1,400,000	1,400,000	1,285,348	114,652	分会の会報発送費の一部支援、その他発送費
5) 会 合 費	500,000	500,000	179,675	320,325	幹事会、執行役員会、各種会合等に係る諸経費
6) 交 際 費	1,000,000	1,000,000	550,276	449,724	分会、県支部、他学部校友会等の総会・懇親会祝金等
7) 旅 費 交 通 費	800,000	800,000	571,450	228,550	出張旅費、運営補助費(5委員会分は除く)
8) 支 払 手 数 料	70,000	70,000	52,272	17,728	銀行振込手数料、残高証明書発行手数料
3 事 業 費	22,870,000	13,280,000	12,923,426	9,946,574	
1) 総 会 費	1,500,000	1,500,000	1,437,060	62,940	総会・懇親会開催諸経費
2) 広 報 費	2,000,000	2,000,000	1,637,790	362,210	学学科校友会会報の製本印刷代、ホームページ管理費
3) 総務委員会運営費	50,000	20,000	0	50,000	委員会開催経費及び運営補助費
4) 財務委員会運営費	50,000	20,000	0	50,000	委員会開催経費及び運営補助費
5) 企画委員会運営費	50,000	20,000	0	50,000	委員会開催経費及び運営補助費
6) 広報委員会運営費	70,000	70,000	0	70,000	委員会、会報編集委員会開催会議及び運営補助費
7) 組織委員会運営費	50,000	50,000	0	50,000	委員会開催経費及び運営補助費
8) 記念事業補助費	300,000	300,000	100,000	200,000	分会及び県支部の記念式典開催に伴う補助
9) 準 会 員 対 応 費	8,000,000	8,000,000	3,306,576	4,693,424	学学科校友会が行う奨学金、準会員支援の原資
10) 組織拡充計画費	200,000	200,000	200,000	0	宮城、山形、神奈川、高知の4支部へ活動資金の補助
11) 学部史展示室開設資金	50,000	50,000	0	50,000	記念展示室の開設準備費用
12) ホームカミングデー経費	50,000	50,000	0	50,000	ホームカミングデー開催準備費用
13) 預 り 金	9,000,000	0	4,730,583	4,269,417	
14) 分会設立準備資金等	1,500,000	1,000,000	1,511,417	▲ 11,417	学学科校友会のない6学科の交付金の受託管理分
4 予 備 費	2,000,000	2,000,000	0	2,000,000	(ホームカミングデー開催経費を含む)
当 年 度 支 出 合 計	51,420,000	41,985,000	32,117,502	8,181,881	
次 年 度 繰 越 金	25,862,119	32,037,604	43,238,119	19,302,498	
支 出 合 計	77,282,119	74,022,604	75,355,621	1,926,498	

校 友 だ よ り

滋賀県農業の発展のために

大学院生物資源科学研究科
生物資源生産科学専攻 修士課程修了
植物資源科学科
平成 29 年卒業 中川 寛之
滋賀県農政水産部 みらいの農業振興課

私は本学大学院修了後、植物や農業に携わる仕事に就きたいと思い、滋賀県庁に技術職（農業）として平成 31 年 4 月に入庁しました。当初から公務員を志望していたわけではなかったのですが、在学中に所属していた研究室の先生が元県職員で、公務員時代の経験をたくさん聞かせていただいたこともあり、農業に直接携わる地方公務員の農業職に魅力を感じ、入庁を決めました。

入庁後は、農業技術振興センター栽培研究部（研究職）に 7 年間勤務し、滋賀県の気象等に適応する新たな麦品種の選定や、麦の施肥試験等、麦の試験研究を担当しました。在学中は植物ウイルスに関する研究をしていたため、大学の講義以外で麦に全く触れたことはありませんでした。しかし、入庁後は、麦の作業や調査に没頭し、いつの間にか職場で麦の専門家と呼ばれるようになっていました。試験研究以外にも、会議や学会で、国や県の研究機関、大学の先生、麦を取り扱うメーカー等様々な方と意見交換をさせていただく機会があり、

自分の専門性について自信を持つことができました。これも麦の専門家として業務に取り組んできたからこそ、生まれた縁だったと感じています。滋賀県の小麦の作付面積は全国第 5 位（令和 6 年産）であり、米に次ぐ基幹作物として作付けを推進しています。今後も麦の専門家としての知識や思いを持ちながら、滋賀県の麦作のさらなる発展に貢献していきたいと思っています。

令和 8 年度からは、農政水産部みらいの農業振興課（行政）へ異動となり、「環境こだわり農産物認証制度に関すること」等の業務を担当しています。具体的には、「環境こだわり農産物」の認証制度や、国の環境保全型農業直接支払交付金（以下、「環直交付金」という。）を通じて、「環境こだわり農業」の推進や、取り組んでいる生産者への支援を行っています。「環境こだわり農業」とは、化学合成農薬や化学肥料の使用量を慣行の半分以下に削減し、さらに濁水の流出防止など琵琶湖をはじめとする環境への負荷を削減する技術で栽培する農法であり、この農法で生産された農産物を「環境こだわり農産物」として県が認証しています。また、平成 15 年

から県独自制度「環境農業直接支払制度」により、農薬・化学肥料を 5 割以下に減らすために増加したコストについて農業者に直接支援を行いました。これを基に、平成 19 年度から国の制度となり、現在の環直交付金に繋がり、耕地面積に占める環直交付金の取組面積割合は、令和 7 年度では全国一となっています。初めて経験する行政の業務に戸惑うことは多くありますが、本県が四半世紀もの間取り組んできた「環境こだわり農業」の業務に携わることに誇りを持ちながら、日々業務に励んでいます。

これまでの経験から、その時々々の業務に真摯に向き合い注力することで、新しい可能性が開けることを実感しました。行政での業務で新たに気づいたことは、専門的な知識だけでなく、それぞれの分野で滋賀県農業はどのような状況であるか、施策がどのように展開されているのか等、滋賀県農業の現状を理解することの重要性です。今後は、これまでの試験研究業務で培った専門的な視点を持ちながら、県内の状況や施策の流れを把握し、俯瞰的に物事を見ながら、滋賀県農業の発展に貢献していきたいと考えています。



麦の生育調査をしている様子



試験区の収穫作業



県庁執務室での業務の様子

BEAUTY INNOVATIONS FOR A BETTER WORLD

農芸化学科 2001 年度卒業
生物資源利用科学専攻 博士前期課程
2004 年度修了 島田 正一郎
株式会社 資生堂 グローバルイノベーションセンター

校友だよりへの寄稿のご連絡をいただき、学生時代から現在に至るまでの歩みを振り返る機会を得ました。

私が農芸化学科に入学したのは、学部名称が「生物資源科学部」となって3年目のことでした。当時は学科の校舎移転の過渡期であり、1年時は六会、2年時は三軒茶屋、3年時から再び六会へとキャンパスが変わった時期でした。4年時には新築された12号館で、一学年上の先輩方が引越しを終えた後の新しい研究室にて卒業研究を始めたことを懐かしく思い出します。予想通りの結果が出ず、大学院生の先輩や仲間と共に試行錯誤する日々でしたが、自ら立てた仮説を検証し、未知の事実を解き明かしていくプロセスがとても楽しかったことを覚えています。そして今思い返せば、その時の一年間が、その後の私を決定づけるものだったと思っています。

現在は資生堂の研究所で研究員として働いていますが、「研究を仕事にしたい」と強く思ったのは学部を卒業して一度就職した後のことでした。卒

業後には飲食店や食品工場の衛生管理をサポートする会社で検査員として働いていましたが、卒業研究で触れた「研究」の楽しさが忘れられず、1年で退職して大学院の博士前期課程へと進学しました。それから二十数年が経ち、当時思い描いていたような仕事に今携わることができていることを、大変幸運に思っています。

今の私の研究対象は「ヒトの肌」です。資生堂では「美」を通じて世界中のお客さまを幸せにするため、多角的な観点から研究を行っています。その中で私は、食品の摂取によって肌を美しく健やかに導く「美容食品領域」の研究に携わってきました。原料開発のために北海道から日本最西端の沖縄県与那国島まで様々な場所に赴いたり、食事で摂取した微量成分が皮膚で増えることを確かめたり、培養細胞を使ってメカニズムを調べたり、実際に開発した食品をヒトに食べていただいて変化を観察したり、幅広い業務を経験しました。博士前期課程を修了後も仕事を続けながら研究生として出身の食品化学研究室に通い、食品成分の機能性研究を継続できた経験は、現在の仕事の大きな糧となっています。こうした日々の業務や研究活動の中で、社内外を問わず、さまざまな場面で多くの「校友」の皆さまに助けていただくこともあり、改めて生物資源科学部の多様性つつながりの強さを感じています。

また去年は、これまで大学で積み重ねてきた研究成果をもとに、博士（生物資源科学）の学位を授与していただき、学位授与式では受領者代表として謝辞を述べる機会にも恵まれました。式中でいただいた「皆さんの研究経験や専門知識は、社会に還元されるべき大きな財産である」という言葉は深く胸に響き、これからの自身の仕事や社会貢献のあり方を再考する強いきっかけとなりました。

今年からは、資生堂研究所内の「富田イノベーターファーム」というチームに特別研究員として参画しています。「成果を求めない研究者の放牧場」をコンセプトに、研究員一人ひとりの知的好奇心や「面白い」という感覚を起点として、まだ存在しない新たな価値の兆しをいち早く捉え、社会に提示することを目標に活動している組織です。少数精鋭の組織であるため、あらゆることを自ら担わなければならない大変さがありますが、通常の業務から離れ、全く新しい研究に取り組む日々を楽しんでいます。学位授与式でいただいた言葉を胸に、これまで積み上げてきたさまざまな経験や知識を生かしながら、資生堂の企業理念である「BEAUTY INNOVATIONS FOR A BETTER WORLD」のもと、これからも美しく健やかな社会の実現に向けて、新たな挑戦を続けていきたいと思っています。



食品産業界を牽引する 農獣医学部 OB・OG

—すずらん会—

食品経済学科 昭和53年卒
元生物資源科学部 教授 木島 実

令和8年2月13日、“すずらん会”が開催されました。

すずらん会は、食品産業界の最前線で活躍する農獣医学部（現生物資源科学部）の卒業生が、卒業学科の垣根を越えて年2回開催される会合です。

今回の参加者は30名前後ですが、回を重ねるごとに生物資源科学部の若い卒業生も参加するようになり、幅広い年齢層の会合となっています。

会の名称“すずらん会”は、学び舎を三軒茶屋キャンパス（現危機管理学部・スポーツ科学部）で過ごした学生時代に、サークルや研究室の打ち上げ、悪友との飲み会の場として訪れた三軒茶屋駅前にある飲食街の通称“すずらん通り”が由来となっています。

この会の始まりは在学中に農獣医学部の伝統あるカッター部に所属していた神谷茂さん（農業工学科・昭和57年卒）、眞野克良さん（食品経済学科・昭和58年卒）、お好み焼き店“文字平”店主の中野潤さん（畜産学科・昭和61年卒）の3人が定期的に旧交を温めていることを伝え聞いた佐藤誠也さん（食品工学科・昭和57年卒）、山田和弘さん（食品経済学科・昭和59年卒）、遠藤和則さん（食品経済学科・昭和56年卒）、平野実さん（食品経済学科・昭和59年卒）が合流するようになりました。

この方々は食品業界におけるリーディングカンパニーの幹部であったことから、その会合の存在が食品業界の卒業生間で話題となり、いつしか“すずらん会”が平成29年3月に発足し、会長には年長者である遠藤和則さんが就任しました。

すずらん会にはフードビジネスを担う食品企業の取締役社長、執行役員などの役職者から顧問、中堅社員の方々が集っており、名刺交換を行

うことで日本大学の絆の強さを確認し、盃を酌み交わす度に母校の将来、食品業界のビジョンを熱く語っています。

大学を取り巻く環境が厳しい今日、卒業生からは「就活支援などを通じて後輩の力になりたい」という声が毎回多く聞かれます。

お開きには参加者全員で校歌斉唱、エールの交換を行い、明日からの英気を養い、次回での再会を約束し、三々五々会場を後にしました。

私はこの会が食品産業界で活躍するOB・OGの“日大ネットワーク”に発展することを期待したい。



現在の“すずらん通り”（令和8年6月6日）



お好み焼き店“文字平”にて（令和7年9月26日）

富 嶽 会

生命農学科

連絡先：応用昆虫科学研究室
0466-84-3520 事務局長 畠山吉則
E-mail: hatakeyama.yoshinori@nihon-u.ac.jp

令和8年度 富嶽会総会の開催

富嶽会総会が本年5月23日(土)に開催されました。長島会長の挨拶から始まり、令和7年度事業報告、決算報告、監査報告ならびに令和8年度の事業計画および予算案が承認されました。また、規約改正と役員改選が行われ、会長は長島武志氏(29期)から市川靖氏(37期)に交代となりました。長島氏は平成26年より会長を務められ、富嶽会の活性化にご尽力されました。また、副会長も佐々木透氏(30期)から、佐藤一朗氏(54期)、片受明氏(49期)に交代となりました。佐々木氏は農学校友会時代から長きに渡って本会を支えていただきました。改めて、お二人には心より感謝申し上げます。なお、今年度からの理事・監査役は以下の通りです。長島武志氏(29期)、佐々木透氏(30期)、木村一雄氏(38期)、中田和見氏(46期)、葉山博史氏(49期)、太田雄三氏(55期)、井出寿利氏(57期)、穴倉寛人氏(64期)、白岩弦氏(65期)、福島昂氏(71期)、玉村翔吾氏(60期、監査役)。

生命農学科の近況

本年3月の生命農学科の卒業式にて、富嶽会から生花の飾り付けと記念品として袱紗が贈呈され、新たに123名が富嶽会正会員(令和7年度卒79期)として仲間入りをしました。すでにお知らせしているところですが、大学進学者数減少への対応や受験生のニーズに応えるため、令和5年に大幅な学部改組が行われました。生命農学科の学生は、留学に伴う休学等



卒業式での生花の飾り付け

の関係から令和8年度には残り15名が在籍しており、彼ら彼女らの卒業をもって、農学科・植物資源科学科・生命農学科と続いていた学科体制が終わります。

学科教員の近況

令和8年3月をもちまして、百瀬博文先生が定年によりご退職されました。百瀬先生は、旧農学科が六会で授業・実習を始めた昭和54年に入学され、大学院修了後の昭和60年に本学助手として着任されました。ご退職までの41年間の長きにわたり、コショウランをはじめとするラン類の培養研究や、画像解析を用いた栽培技術の最適化にご尽力され、数多くの優秀な卒業生を社会へと送り出されました。令和8年3月7日には、退職記念講演「六会で過ごした47年の歩み」が開催され、教員・在学生・卒業生あわせて100名を超える方々が集いました。



百瀬 博文先生の退職記念講演

その後、食堂棟「オレンジ」にて催された退職記念パーティーにも80名の卒業生が集い、旧交を温める楽しいひとときとなりました。現在は、施設園芸学の非常勤講師をお願いしていますが、定年を機にご実家の長野県で農業を始められています。新しいお仕事でも益々のご活躍をお祈り申し上げます。

長島前会長よりメッセージ

富嶽会前会長の長島武志です。平成26年に富嶽会会長、29年には学部校友会副会長をお引き受けしてから12年が経ちました。私は、校友会活動の重点が在学生支援となっていましたので、在学生が楽しく記憶に残る事業を多く企画することを心掛けましたが、本来の主



長島 武志 前会長

役である卒業生には、総会、講演会、懇親会、学部校友会報の発刊と発送程度しか実施できませんでした。次々に発生する課題に追われる日々で、特に令和2年のコロナ禍は収束後も以前のような活動ができない状況が続き、令和5年の学科改組は校友会にも大きな影響を与えました。新学科11学科の中で、未だ学科校友会の継続が決定していない学科があり、富嶽会もその中にあります。卒業生の多くは、母校を心の拠り所としています。富嶽会が、名前や形態が変わったとしても継続されないと、70年の歴史と7千人の卒業生との縁が切れます。それは、新学科、学部の応援団がなくなることです。私は、学科と富嶽会の運営協力関係を見直し改善しながら、歴史を重ねて行くことを切に願っています。

市川新会長よりメッセージ

富嶽会新会長として選任されました市川靖です。百瀬博文先生、長島武志前会長、長い間ご苦勞様でした。学生時代、視察研修や収穫祭等の実行委員を同期の百瀬先生と共に務め、良い思い出となっています。平成5年に校友会理事に選任され、以来、監査役、副会長として務めてまいりました。どうぞよろしくお願いいたします。富嶽会は平成25年10月12日に農学校友会創立60周年記念式典と同日の総会で名称変更が承認され発会しました。農学科、植物資源学科、生命農学科の卒業生を会員とし、校友は延べ六千人を超える歴史ある会です。校友会の在り方について、会員皆様の意見を尊重し、会員相互の親睦を図っていく所存です。



市川 靖 新会長

富嶽会事務局より

富嶽会事務局は昨年度と同様に、事務局長 畠山吉則教授、庶務理事窪田聡教授、庶務 東未来専任講師が担当します。富嶽会のホームページ(<https://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~fugakukai/>)にて令和8年度富嶽会総会の資料を掲載いたしましたので、どうぞご覧ください。(井村喜之)

紫 友 会

生命化学科

連絡先：発酵化学研究室
0466-84-3945 事務局長 荻原 淳
E-mail: ogihara.jun@nihon-u.ac.jp

令和8年度 紫友会

【理事会開催について】

令和7年度生命化学科の卒業生をもって、実質的な生命化学科の教育研究活動を閉じることになりました。このため、在校生への支援活動を中心とした紫友会の活動も収束して参ります。毎年7月に開催しております理事会は、本年はメール審議などによりお願いすることになりました。ご理解をお願いいたします。

【令和8年度生物資源科学部校友会通常総会及び懇親会 校友会表彰】

令和8年7月11日午後1時30分から生物資源科学部本館 NU ホールAにて令和8年度生物資源科学部校友会通常総会が開催されました。この席で、紫友会同窓生の鬼武一夫氏（昭和56年農芸化学科卒、土壌学研究室、日本生活協同組合連合会）に対して校友会表彰が授与されました。同氏の消費者庁、農林水産省等の政府機関における消費者団体を代表する立場から、食品安全行政に関

する提言・助言を行うなど多大な貢献をしたことから、内閣府特命担当大臣表彰を受賞された功績にたいして贈られたものです。

生命化学科の近況

【在校生】

令和7年10月18日に紫友会杯争奪研究室対抗ソフトボール大会が開催されました。この開催が実質的な生命化学科としての最後の大会となりました。熱戦の結果、環境微生物学研究室が優勝しました。表彰式には紫友会役員の皆様にもご同席いただきました。伝統のある優勝旗並びに優勝杯、木島杯は優勝した環境微生物学研究室に大切に保管されております。これらの保管についても今後事務局にて対応して参ります。卒業式は令和8年3月25日に日本武道館および学部大講堂にて令和7年度学位伝達式が開催され、生命化学科卒業生118名が社会へ羽ばたきました。現在、当学科には3年次学生4名、4年次学生16名、計20名（男子17名、女子3名）の学生が在籍しております。

【学科教員動向】

生命化学科に在席していた教員はバイオサイエンス学科10名、食品開発学科1名、環境学科1名、アグリ

サイエンス学科1名に所属しており、学科全体では教員13名の布陣で教育研究活動にあっております。令和8年4月1日に渡邊泰祐先生（発酵化学研究室）が教授に昇格されました。今後ますますの教育研究活動へのご活躍を祈念いたします。林真理子理事長の任期満了（令和8年6月・定時評議員会終結の時まで）に伴い、令和8年6月24日開催の臨時理事会において、関泰一郎先生（栄養生理化学研究室、前生物資源科学部長）が同日付けで新理事長に就任いたしました。任期は、令和12年6月開催の定時評議員会終結の時までの約4年間です。日本大学を日本、そして世界の未来を切り開く原動力となる「未来志向の大学」へと進化・発展させていけるよう、教職員一同努力して参りたいと思います。

紫友会事務局より

【事務局からのお知らせ】

現在紫友会の校友会活動の存続について、関連校友会の皆様と協議、検討を進めております。学部校友会や新学科の皆様とも議論を深め進めて参りますのでお待ちいただけますようお願いいたします。

（荻原 淳）



紫友会杯争奪ソフトボール大会 優勝 環境微生物学研究室



令和8年度生物資源科学部校友会表彰

角 笛 会

獣医学科

連絡先：獣医生化学研究室
0466-84-3634 事務局長 岡林 堅
E-mail: okabayashi.ken@nihon-u.ac.jp

令和8年度 角笛会総会・ 日本大学獣医学会 合同大会の開催

令和8年7月4日(土)、日本大学生物資源科学部1号館121講義室において、令和8年度角笛会総会および第61回日本大学獣医学会が開催されました。

日本大学獣医学会は渋谷久学会会長のもと、9題の一般公演と教員1名(松鶴彩先生 本学獣医保健看護学科)と外部講師2名(金子泰之先生 宮崎大学農学部附属動物病院、松本泰和先生 島根県・犬猫生活株式会社益田ペットクリニック)による教育講演が行われました。

角笛会総会では鳥海弘会長(昭和50年卒)から挨拶があり、総会は浜田圭議長の進行で審議が行われ、令和7年度事業活動および会計収支報告、令和8年度事業計画および予算案等が審議されました。

角笛会の発展に貢献した角笛会特別功労者として、山内正孝氏(青森県)、清浦邦彦氏(長崎県)の2名に賞状と記念品が授与されました。

令和8年度 角笛会主催 獣医療系企業就職説明会の開催

令和8年7月4日(土)(令和8年度日本大学獣医学会・角笛会合同大会と同日)、生物資源科学部校友会準会員(学生)のための獣医療系企業就職説明会が開催されました。

趣旨・目的に賛同し参加した動物病院や地方自治体等による個別相談ブースが用意され、多くの学生が参加しました。今回は獣医学科学生だけでなく、新設から4年目の獣医保健看護学科の学生も来場しました。就職活動だけでなく低学年の動物病院見学や実習などさまざまな情報交換が行われ、企業・団体、学生の双方から有意義なイベントとなったと好評を得ました。(写真1)

第21回 日本大学医療系 同窓・校友学術講演会

第21回日本大学医療系同窓・校友(医学部同窓会、歯学部同窓会、松戸歯学部同窓会、薬学部同窓会、獣医学科校友会・角笛会)学術講演会が開催されました。本講演会は角笛会が担当し、令和7年10月19日(土)13時30分より、日本大学校門会館(市ヶ谷)大会議室にて、「日大医療の最前線」というテーマで実施されました。角笛会からは中山駿矢先生に座長として本会を進行頂き、鯉江洋先生(角笛会副会長)が「Zoobiquity(汎

動物学)さまざまな動物の心臓病態生理学」と題してご講演頂きました。講演後に開催する総合討論では自由な情報交換が行われました。講演会後の懇親会は、学部を超えた懇親の輪が広がっておりました。(写真2)

獣医学科の近況

【獣医師国家試験】

第77回獣医師国家試験が令和8年2月17日、2月18日にTOC有明(東京会場)にて行われました。日本大学獣医学科から110名が受験し、84名が合格しました。合格率は76.4%(全国平均68.4%)でした。

【卒業生および新入生】

本年3月25日に114名(男子57名、女子57名)が本学科を卒業しました。また、本年4月には120名(男子46名、女子74名)の新入生を迎え、令和8年5月7日に食堂棟3階にて新入生歓迎会が行われました。

【学科人事】

鈴木亨教授(獣医微生物学研究室)、岡野雅春専任講師(実験動物学研究室)が採用されました。安井禎准教授(獣医解剖学研究室)、岡林堅准教授(獣医生化学研究室)、小熊圭祐准教授(獣医伝染病学研究室)が教授に昇格されました。また、瀬川太雄助教(獣医衛生学研究室)が専任講師に昇格されました。

(木庭 獵達)



就職説明会(写真1)



日本大学獣医学会・角笛会の懇親会にて(写真2)

いもづる会

食品ビジネス学科

連絡先：学科事務局

0466-84-3411 事務局長 佐藤 奨平

E-mail: imozurukai@gmail.com

食品ビジネス学科校友会による支援

3月の学科卒業パーティー（ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル）に対して補助とビンゴ大会景品提供を、続く卒業式では会長祝辞・表彰、卒業アルバム提供を行いました。



卒業パーティー・卒業式

4月の新入生ガイダンスでは、青木泰祐会長による祝辞を披露し、事務局からはスライドを用いて学科校友会の活動紹介を行いました。5月には新入生がNUBSフェスタで、3年生は学科球技大会（学科校友会より賞品提供）で交流を深めました。オープンキャンパスでは、食品ビジネス学科FD委員会（旧ゼミ連絡委員会）の学生たちが運営や案内役として主体的・積極的に参画しています。本年度FD学生は100名を超え、複数のプロジェクトを立ち上げています。これに対し、学科校友会からも支援を行っています。さらに、BtoCのマーケティング分野を中心とする幅広い年代の学科卒業生には、トークイベントや仕事展示ブースへのご協力をいただきました。協力卒業生の勤務先としては、次のとおりです。

- ・2025年度：味の素冷凍食品㈱、キッコーマン食品㈱、タカナシ乳業㈱、㈱中村屋、㈱ニッスイ、パルシステム生協連合会、㈱山星屋、㈱ロッテ
- ・2026年度：キッコーマン食品㈱、㈱紀文食品、JA横浜、タカナシ乳業㈱、㈱中村屋、㈱ニッスイ、パルシステム神奈川、㈱山星屋、㈱ロッテ

オープンキャンパス後、2年生は「フィールドリサーチ」（旧経済調査実習）のため調査先に合宿形式で社会調査を行い、調査報告書を取りまとめました。多くの卒業生の皆さんは、夜までかかって調査結果をまとめるなど、懐かしい思い出があると思います。また、学科80周年を機にリニューアルされた夏の集中講義「食品ビジネス特別講義」は、第一線で活躍する実務家を講師として招き、「食で人を幸せにするTo Cビジネスを創造するーアントレプレナーシップを育むー」をテーマに実施しました。当学科出身の若き起業家たちの熱き志とメッセージは、多くの受講生に届いたと思います。優れたビジネスプランは、予選を通過し、決勝プレゼンにて発表されました。前年度受賞したメンター学生には、学科校友会からも支援を行っています。

10月の藤桜祭では、お茶処の開室のみならず、役員が中心となり1～2年生向けの新企画「学科卒業生による食品ビジネスパビリオン」を開催しました（2025年度：味の素冷凍食品㈱、キッコーマン食品㈱、㈱紀文食品、JA全農さいたま、タカナシ乳業㈱、東亜商事㈱、㈱ニッスイ、横浜丸中ホールディングス㈱）。2026年度以降も継続し、学科校友会の強みを発揮します。



学科卒業生による食品ビジネスパビリオン



学科卒業生による食品ビジネスパビリオン



学科卒業生による食品ビジネスパビリオン

食品ビジネスパビリオン

幹事会・懇親会の開催

2026年6月6日（土）には、四半世紀ぶりに三軒茶屋キャンパス（旧農獣医学部・生物資源科学部東京校舎）にて幹事会を行いました。役員改選となったこの日、会場には、湘南キャンパスで学生時代を過ごした若手の新役員たちも参加しました。ベテラン勢は、すっかり様変わりした「東京校舎」に驚いていました。新役員・新事務局体制は、次のとおりです。

【顧問】島田圭一郎（農経18期）元㈱日本農業新聞代表取締役社長／【顧問】横川屹（農経21期）元湘南青果㈱代表取締役社長／【相談役】藤井正気（食経28期）TREE'S Co. Ltd.代表取締役社長

【会長】青木泰祐（食経34期）（一社）横浜市場サービス代表理事・元横浜丸中ホールディングス㈱常務取締役／【副会長】飯嶋雄次（食経37期）元㈱紀文食品取締役兼常務執行役員／【副会長】中原博司（食経38期）㈱縁屋（水産貿易会社経営）代表取締役社長／【副会長】松原晋（食経42期）日水物流㈱人事総務部シニアエキスパート（採用担当）・元㈱ニッスイ・本学部研究員（食品企業組織論研究室）

【常任幹事長・産学ネットワーク担当】木島実（食経32期）元日本大学教授／【常任幹事】持丸祐（食経39期）東亜商事㈱常務取締役（酒類事業本部長）／金子徳男（食経40期）㈱崎陽軒／三薮治彦（食経42期）／鈴木盛人（食経43期）八千代エンジニアリング㈱／米澤哲（食経43期）キッコーマン食品㈱／鈴木宏幸（食経53期）横浜農業協同組合（JA横浜）／勝島愛子（食経59期）㈱中村屋／加藤敦志

（食経61期）Umios㈱／中曽一嘉（食経61期）全農東日本エネルギー㈱／石原広大（食経65期）㈱中村屋／宇野瞳美（食経66期）㈱久世／小川明日美（食経66期）全国労働者共済生活協同組合連合会／市田萌（食経71期）味の素冷凍食品㈱／鈴木千裕（食経71期）フリーランス（Webマーケティング）／阿部優樹（食経78期）東洋冷蔵㈱／山崎晴彦（食経80期）㈱メリーチョコレートカンパニー



フードック

【会計監事】菊池宏之（食経36期）大和大学教授／飯塚勝彦（食経60期）群馬県農業共済組合

【事務局長：総務・庶務】佐藤奨平（食経61期）日本大学准教授／【事務局員：一般会計】齋藤文信（食経53期）日本大学准教授／【事務局員：特別会計】菊地香（拓植39期）日本大学准教授／【事務局参与：事務局助言等】高橋巖（食経38期）日本大学特任教授

懇親会は、三軒茶屋すずらん通りの「割烹味とめ」にて行いました。参加者全員が近況や大学の思い出についてスピーチをしました。「味とめ」が東京校舎時代のゼミで「第三研究室」と呼ばれていたのエピソードも披露されました。



思い出の「第三研究室」

食品ビジネス学科の近況

【卒業生・在校生】

2025年度に144名（記念すべき第80期生）が卒業し（正会員総数10,889名）、本会からは学業優秀者表彰（1名）、サポートチューデント（2名）、専門フードスペシャリスト合格（1名）、簿記2級合格（1名）、TOEIC735点（1名）に対して食品ビジネス特別奨学賞を授与しました。2026年度新入生は152名を迎えました（1年次152名、2年次166名、3年次158名、4年次158名、計634名）。新カリキュラム4年目として動いております。

【教職員の動き】

2026年4月に東京家政大学栄養学部より谷口明日香助教（調理加工研究室）が着任されました。食品ビジネス学科の研究教育体制の強化が図られています！

食品ビジネス学科校友会
ホームページ

<http://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~imozuru/>
「いもづる会」で検索

Facebook（いもづる会 校友会）

<https://www.facebook.com/imozurukai/>
Facebookで友達申請をしてください。

（佐藤 奨平）



あすなろ会

森林学科

連絡先：森林環境保全学研究室
0466-84-3675 小坂 泉
E-mail: asunaronichidai@gmail.com

あすなろ会活動報告

令和7年度あすなろ会役員会を令和7年9月27日、本学部10号館にて開催しました。令和6年度事業報告、決算報告、監査報告並びに次年度の事業計画案及び予算案について審議され、承認されました。

令和6年度は、あすなろ会から学科・学生に対し、新入生への入学記念品授与、実習の補助学生への補助、学科Tシャツ製作補助、第2回オープンキャンパスでの協力学生への昼食補助、卒業式でのあすなろ会長賞授与および卒業記念品授与、学会発表に挑戦する学生への参加費や旅費等補助の支援をして頂きました。

同期会の開催報告

昭和46年3月に林学科を卒業した第20期卒業生の宮島吉夫氏より、同期会の開催報告を頂きました。

「卒業後46年を経て平成29年に全国から15名の同期生が集まり、石川県能登町在住の本江一郎先生をお招きして、第1回同期会を日本大学生物資源科学部(旧農獣医学部)において開催しました。

元気で体が動くうちに毎年集まろうということで、コロナ禍を除き令和5年から毎年開催しています。7回目の今年は箱根で開催しました。参加者は毎年10名程度ですが、年に1回集まって学生時代の思い出話、健康、家族のことなど近況報告をしたりして、楽しい時間を過ごしています。元気なうちは毎年続けていきたいと思っています」

同期会開催には、あすなろ会から一人当たり1,000円の補助があります。開催をご予定の際には、事務局までお問合せ下さい。



令和8年 第20期同期会の記念写真

学科の近況

【学生の動向】

令和8年3月25日には、127名(男子104名、女子23名)が森林資源科学部を卒業しました。成績優秀かつ研究室に貢献した学生9名に「あすなろ会会長賞」を授与し、表彰状と記念品が贈られました。

令和8年4月、森林学科に新入生124名(男子95名、女子29名)を迎え、あすなろ会から入学記念品を贈りました。5月にはNUBSフェスタ(新入生の学科対抗運動会)が開催され、あすなろ会にご支援いただいたお揃いのTシャツを着て参加しました。



NUBS フェスタの様子

【学科教員の動向】

森林生態学研究室の上村真由子先生が教授に、森林植物・微生物学研究室の松倉君予先生が専任講師に昇格されました。

バイオマス資源化学研究室内の毛利

嘉一先生が、木材保存研究の国際機関IRG/WPから、将来を期待される若手研究者に贈られる「Ron Cockcroft Award」を受賞し、5月に北京で開催された国際会議で授賞式が行われました。



毛利嘉一先生

【学科の体制と教員配置】

森林学科は3つの分野と6つのテーマから構成されています。

森林エコシステム分野 生態(安部哲人教授・上村真由子教授)、微生物(太田祐子教授・松倉君予専任講師)
森林サービス分野 森林環境(瀧澤英紀教授・小坂泉准教授)、共生(吉村充則教授・杉浦克明教授・園原和夏准教授)

森林バイオマス分野 バイオマス(毛利嘉一専任講師・木口実特任教授)、エコマテリアル(堀江亨教授・倉田洋平専任講師)

森林学科・あすなろ会ホームページ

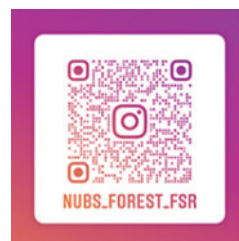
下記アドレス等にて、あすなろ会ホームページをご覧になれます。

<https://hp.brs.nihon-u.ac.jp/~asunaro/index.html>

あすなろ会にご支援いただき、森林学科HPが「受験生特設サイト」としてリニューアルしました。下記アドレスにて、森林学科のコンセプトやカリキュラム、研究の紹介、実習動画による学生の様子、学科の近況をご覧になれます。

森林学科 受験生特設サイト

<https://forest-nihon-university.com/>



学科公式インスタグラムのQRコード

(園原 和夏)

桜水会

海洋生物資源科学科

連絡先：海洋環境学研究室
0466-84-3686 事務局長 荒 功一
E-mail: ara.koichi@nihon-u.ac.jp

令和8年度桜水会総会と講演会の開催報告

令和8年8月1日(土)、第2回オープンキャンパス終了後に、10号館第1013講義室において令和8年度桜水会総会が開催されました。総会では、令和7年度の事業報告、決算報告および監査報告が行われ、さらに令和8年度の事業計画案および予算案について審議がなされました。いずれの議案も承認され、今後の桜水会の活動方針が確認されました。

また、総会後には、同会場にて桜水会主催による講演会が開催されました。今回は、山根茉夕氏(69期：株式会社東陽テクニカ)を講師にお迎えし、「海洋計測に関する各種技術発展のご紹介」と題してご講演いただきました。講演では、海洋観測や水産分野に関わる最新の計測機器に加え、それらを活用した測定事例についてご紹介いただきました。参加した卒業生、学生および教員にとって、海洋計測技術の進展とその応用について理解を深める貴重な機会となりました。

学科・準会員への支援

本年度前期の授業は、4月10日から7月30日までの期間に開講されました。前期の必修科目である「海洋生物資源科学概論」(1年次必修科目)では、将来就きたい職業を見つけるための職業研究の一環として、社会で活躍する本学科卒業生による体験談の講演が行われました。7月17日には、岡部泰基氏(67期：新潟県立海洋高校)に「水産高校教員の仕事～研究と教育の両立～」、友納大我氏(72期：フィード・ワン株式会社)に「学生と社会人」と題してご講演いただきました。また、7月24日には、小野木健起氏(72期：東洋冷蔵株式会社)に「水産商社で魚

を売る」、横山有人氏(72期：東京都)に「地方公務員として水産行政に携わる」と題してご講演いただきました。

上記のほか、1年次の学科オリエンテーションとして実施した地引網実習や、必修科目である「海洋基礎実習Ⅰ」における熱中症対策などの支援を行いました。本年度は、下田臨海実験所において乗船実習、磯採集、磯釣りおよび釣果物の観察などを実施したほか、1年次用の学科Tシャツの作製と配布も完了しています。今後は、在学生の学会参加費の補助、卒論コンペ(塚本賞)の支援、卒業生への記念品の贈呈などを予定しています。

学科の近況

【新入生・在学生】

本年4月に海洋生物学科として147名(男子103名、女子44名)の新入生を迎え、新旧学科を合わせて現在604名(男子425名、女子179名)の学部生が在籍しています。また、大学院には、4専攻にわたり、博士前期課程に32名(男子24名、女子8名)、博士後期課程に6名(男子4名、女子2名)が在籍しています。

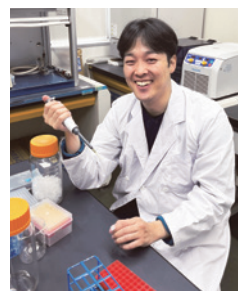
【学科教職員】

令和7年度をもちまして、本学科の教育研究活動を長年にわたり担っていただいた松宮政弘特任教授ならびに小島隆人教授がご退職されました。両先生は、それぞれの専門分野における研究や教育を通じて多くの学生を導かれ、学科の発展に大きく寄与してくださいました。お二人の長年にわたるご貢献と温かな人柄に、教員・学生一同、心より深く感謝申し上げます。ともに、今後のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。



海洋基礎実習Ⅰの一コマ。下田の青い海をバックに、班員そろって笑顔の一枚です。

令和8年度には、新たに尾山輝(おやま ひかる)助教が着任されました。現在は、専任教員15名の体制で学科を運営しています。学科事務室については、昨年度に引き続き、河野直子実習助手と宮治久美実習助手の2名体制で業務にあたっています。お二人のきめ細かなサポートにより、学生対応や事務処理が円滑に進められており、学科全体の活動を大きく支えていただいています。



令和8年度に着任された尾山輝助教。本学の卒業生として、学生たちとともに新たな一歩を踏み出しました。

桜水会事務局より

桜水会会員の皆様の近況や同期会の活動などについて、事務局までお知らせください。桜水会のホームページは、リニューアルされた海洋生物学科HP(http://www.msr-nihon-university.org/osui_news/)内に併設されていますので、ぜひご利用ください。同HPでは、毎年の桜水会報を掲載しているほか、連絡先の変更手続きも可能です。桜水会は、2021年3月より会報を完全オンライン化し、連絡方法を従来のハガキ送付からメール送付に移行しました。メールアドレスの登録や変更は、桜水会HPでお願いいたします。

(福島 英登)

工 学 会

生物環境工学科

連絡先：スマート農業研究室
(生物生産システム工学研究室)
0466-84-3691 梅田 大樹
E-mail: umeda.hiroki@nihon-u.ac.jp

会員動向

正会員数は、令和7年度卒業生96名を加え、令和6年3月現在で8497名となりました。現役学生である準会員は、3年生1名、4年生12名で、合計13名となっています。

河野英一先生の叙勲を祝う会 開催(後援:工学会)のご報告

私たちの恩師である、河野英一先生(日本大学名誉教授)が、令和6年秋の叙勲において瑞宝中綬章をご受章されたことの祝賀会を、令和7年10月4日に湘南鎌倉クリスタルホテルにて行いました。



河野英一先生の叙勲を祝う会の一コマ

学科教員人事

令和8年度の生物環境工学科は、以下の体制(教授5名、准教授6名、専任講師2名、助教1名)となります。教員氏名の後にあるカッコ内は学部改組後の新しい所属学科名になります。

水資源環境工学

長坂貞郎 教授(環境)、
山崎高洋 専任講師(環境)

地域環境保全学

笹田勝寛 准教授(環境)、
對馬孝治 准教授(環境)

地球環境・資源リモートセンシング

串田圭司 教授(環境)、
宮坂加理 助教(環境)

動物生態環境学

三谷奈保 准教授(動物)

建築・地域共生デザイン研究室

栗原伸治 教授(国際共生)、
藤沢直樹 専任講師(環境)

環境土木施設工学

斉藤丈士 教授(環境)

生物生産システム工学

川越義則 准教授(アグリサイエンス)、
梅田大樹 准教授(アグリサイエンス)

生物生産流通施設学

都甲洙 教授(食品開発)

バイオメカトロニクス

内ヶ崎万蔵 准教授(環境)

今年3月末日をもって、宮本眞吾 特任教授が5年間の任期を満了されました。今後ますますのご活躍を祈念いたします。



宮本眞吾先生ご退職のご挨拶

生物環境工学科よりご挨拶 (生物環境工学科責任者 長坂貞郎)

令和5年4月の学部改組から3年以上が経過し、生物環境工学科の学生は残り少なくなりました。生物環境工学科は、平成8年度に農業工学科から名称変更して以来、30年以上の歴史を刻んできました。その間、5回のカリキュラム改正やJABEE認定を受けるなど、教育改善を行い、優れた卒業生の輩出に努めてきました。学科学生が少なく、開講科目は少なくなっていますが、在校生の不都合となることがないよう、学科教員で対応してまいります。生物環境工学科の教員は、すでに新学科に配属されており、動物学科、環境学科、アグリサイエンス学科、食品開発学科、国際共生学科と、学部全11学科中5学科で研究・教育活動に従事しています。このことから、生物環境工学科の扱う分野が広く多岐にわたっていることがわかり、生物環境工学科の卒業生はその幅広い知見を活かして社会で活躍されておられます。生物環

境工学科の教員は、配属された新しい学科でも変わらずに熱心に研究・教育に取り組んでおりますので、今後ともご指導とご支援をいただきますよう、何卒よろしくお願いいたします。

準会員への支援活動

工学会では、準会員である現役学生に向けた支援を行っています。令和7年度の卒業生には卒業記念品(印鑑付きボールペン)の贈呈、及び卒業生表彰(工学会長賞)を行いました。工学会長賞は内田康介さん、堀田萌香さん、山口凜乃さん、和田美咲さんの4名となり、学位記伝達式にて受賞者の公表が行われました。



学位記伝達式の一コマ

事務局より

生物環境工学科の在学生在が全て卒業するまでの期間、工学会は存続しますが、その後は校友会の会則により分会の資格を失い「準分会」となる見込みです。準分会となっても、これまでと同様の親睦活動が行えるよう、学部校友会および学部当局に対して要望してまいります。引き続き、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。会員の皆様には今後も工学会ホームページでの情報発信に努めてまいりますので、お時間のある際には是非ご覧ください。また、下記E-mail アドレスにメールいただければ定期的な情報も配信いたしますので、ご活用ください。

工学会ホームページ

<https://bae-kougakukai.org>

お問い合わせページ

<https://bae-kougakukai.org/contact/>

E-mail: info@bae-kougakukai.org

(工学会公式)

FAX: 0466-84-3836

(地域環境保全学研究室 笹田直通)
(梅田 大樹)

F T 会

食品生命学科

連絡先：食品資源利用学研究室
0466-84-3980 成澤 直規
E-mail: narisawa.naoki@nihon-u.ac.jp

F T会活動報告

【F T会理事会および総会の開催】

本年度のF T会理事会は、4月11日(土)に開催されました。この理事会において、令和8年度事業計画案および会計収支予算等が承認されました。また、6月13日(土)には総会が開催されております。

60周年記念式典

令和7年11月8日(土)に、日本大学生物資源科学部食堂棟3階にて、F T会60周年記念式典ならびに懇親会を開催いたしました。当日は100名を超える卒業生をはじめ、多くの関係者の方々にご参加いただき、盛会となりました。なお、式典・懇親会の様子は、F T会ホームページに掲載していますので、ぜひご覧ください。

【準会員(在学生)への活動】

F T会では準会員への活動援助として、4年生へ卒業記念品の贈呈を行いました。4年生の学業優秀者に贈ら

れるF T会長賞には荒木美瑛さん(食品栄養学研究室)が選出されました。全学生に対する資格試験受験料の補助も例年通り実施しました。また、1年生の学部スポーツフェスタに対して、Tシャツ作製の補助を行いました。

学科の近況

【在学生と卒業生】

本年3月、F T会61期生149名が卒業し、社会へ巣立っていきました。令和8年度は食品開発学科新入生157名を迎え、2年生151名、3年生148名、4年生133名、食品生命学科7名と合わせて計596名が在籍しております。

【学科人事】

本年4月より、小宮佑介先生(ミートサイエンス研究室)が准教授として着任されました。小宮先生は九州大学で学位取得



小宮佑介先生

後、前職の北里大学では主に筋肉構造の研究をされていました。本学では食品科学や食と公衆衛生などの講義をご担当いただきます。

令和8年度 食品開発学科は以下の構成となっております。

○12号館5階

食品微生物学研究室

(鈴木 ちせ 教授、河原井 武人 専任講師、京井 大輔 専任講師)

(旧食品生命学科)

食品加工学研究室

(阿部 申 准教授)

(旧食品生命学科)

食品素材科学研究室

(鳥居 恭好 准教授)

(旧食品生命学科)

食品化学工学研究室

(陶 慧 准教授)

(旧食品生命学科)

食品開発学科 特任教授室

(竹永 章生 特任教授、長田 和実 特任教授)

○12号館6階

食品資源利用学研究室

(成澤 直規 教授)

(旧食品生命学科)

食品生命機能学研究室

(細野 朗 教授、津田 真人 准教授)

(旧食品生命学科)

食品栄養学研究室

(長田 和実 教授、大畑 素子 准教授)(旧食品生命学科)

食品分析学研究室

(松藤 寛 教授、大槻 崇 准教授)(旧食品生命学科)

ミートサイエンス研究室

(小宮 佑介 准教授)(新規)

○12号館3階

食品化学研究室

(山口 勇将 准教授)

(旧生命化学科)

○5号館2階

食と健康研究室

(山下 正道 准教授)

(旧くらしの生物学科)

○6号館4階

ミルク科学研究室

(川井 泰 教授)

(旧動物資源科学科)

○7号館3階

生物生産流通施設学研究室

(都 甲洙 教授)

(旧生物環境工学科)

○1号館

熊谷日登美 特任教授

事務局より

F T会のホームページ(<http://ftkai.net/>)では総会のご連絡など各種イベント情報を公開しています。また、F T会では同窓会・同期会の開催に際し、一部補助を行っています。ホームページからお問い合わせください。

(成澤 直規)



F T会長賞 授賞式の様子
(R8年3月25日 卒業式にて)

拓友会

国際地域開発学科・国際共生学科

連絡先：熱帯資源作物研究室

0466-84-3468 事務局長 倉内 伸幸

E-mail: kurauchi.nobuyuki@nihon-u.ac.jp

令和8年度総会の報告

令和7年11月28日に、国際共生学科準会員による校友会準備委員会と国際共生学科主任飛田哲教授の連名で拓友会会長宛に、国際共生学科校友会受入の依頼文書が届きました。直ちに拓友会臨時総会に代わる幹事会を開催し、協議の結果受入を承認しました。その後、学部校友会会長宛に国際共生学科校友会受入の報告を行い、学部校友会幹事会での報告を終え令和8年4月1日より国際共生学科準会員を加えた新たな拓友会がスタートしました。今後は、国際共生学科会員・準会員へのサポートをするとともに拓友会のさらなる発展に努めて参ります。

活躍する卒業生

- ・ブラジル在住の山田清さん(1975年卒)が令和7年秋の叙勲で旭日双光章を授与されました。
- ・名古屋大学農学国際教育センター教授の江原宏(1985年卒)先生が令和8年4月より日本熱帯農業学会会長に就任されました。同副会長は倉内伸幸教授(1987年卒)で、拓友が熱帯農業研究を牽引しています。
- ・日本大学は、ウガンダの稲作分野でJICA海外協力隊と大学連携派遣協定を2015年から締結しており、11年を迎えさらに延長する予定です。この間、ほぼ毎年拓友会員・準会員を派遣してきました。2013年から国際協力機構(JICA)の稲作専門家で、ウガンダ共和国国立作物研究資源研究所(NaCRRI)を拠点に「持続的なコメ振興プロジェクト」のチーフアドバイザーを務めてきた宮本輝尚さん(2009年卒、2024年農学博士)に代わり、令和4年1月より2年間ウガンダに派遣され、帰国後倉内教授の研究室で大学院修士課程を修了した辻愛友さん(2020年卒)が、JICA専門家として令和8年6月よりウガンダに赴任しました。辻愛友さんが指導の下、2名の長期協力隊員と3名の短期協力隊員が活動しています。また、タンザニアのJICA稲作プロジェクトには、栗原(旧姓:長澤)一寿(2003年卒)君、エルサルバ

ドルのJICA養蜂プロジェクトには、高橋貞雄(1989年卒)君が活躍しています。

海外研修

国際共生学科では、以下の通り毎年学科別海外研修を実施しております。

令和6年度海外研修

ウガンダ(引率教員:山下哲平、佐々木大)、タイ(渡邊志、園江満)

令和7年度海外研修

ネパール(引率教員:飛田哲、須永豊)、スリランカ(西麻衣子、山下哲平)

令和8年度海外研修

ルワンダ(引率教員:西麻衣子、山下哲平)、タイ(宮澤尚里、佐々木綾子)

令和7年度拓友賞授与

令和7年度の拓友賞は、畠山果音さんが推薦され、令和8年3月25日に実施された卒業証書伝達式の席上、表彰状ならびに副賞が授与されました。



畠山果音さん(右)、北原幸典会長(左)

JICA 海外協力隊派遣状況

(派遣中)

尾出悠斗(食用作物・稲作栽培):

令和7年4月より2年間(2024年卒)、ウガンダ

田仲祐里佳(食用作物・稲作栽培):

令和7年7月より2年間(2025年卒)、ウガンダ

(短期協力隊派遣)

澤谷萌生(農林統計):

令和8年7月より9月(4年生在学中)、ウガンダ

山本温斗(農林統計):

令和8年7月より9月(4年生在学中)、ウガンダ

桐生優子(食用作物・稲作栽培):

令和8年7月より12月(2003年卒)、ウガンダ

(帰国)

新井佐和(コミュニティ開発):

令和6年6月より2年間(2022年卒)、ウガンダ

金井美紀(食用作物・稲作栽培):

令和6年4月より2年間(2023年卒)、ウガンダ

在学生の近況

令和8年8月現在、1年生0名、2年生1名(男子1名)、3年生17名(男子12名・女子5名)、4年生126名(男子87名・女子39名)の合計144名(男子100名・女子44名)が在籍しています。

*令和5年度からの新学科の開設に対応して、IDSの1年生から3年生は留年した学生数となっております。ちなみに国際共生学科の1年生は160名(男子97名・女子63名)、2年生は164名(男子117名・女子47名)、3年生は129名(男子83名・女子46名)となっております。

本年度の研究室配置と所属教員

国際環境経済研究室

松本礼史 教授

国際環境保全学研究室

ロイキンシュック 教授

佐々木綾子 専任講師

国際協力研究室

飛田 哲 特任教授

福田聖子 専任講師

国際経営・流通研究室

李 裕敬 准教授

国際経済研究室

石田正美 特任教授

国際社会研究室

山下哲平 准教授

熱帯資源作物研究室

倉内伸幸 教授

加藤 太 教授

佐々木大 専任講師

農業経済研究室

菊地 香 准教授

比較文化研究室

園江 満 専任講師

学科事務室

粕川博美 吉田芽衣

以上、15名(教授6名、准教授3名、専任講師4名、学科事務室2名)で運営しております。

訃報

本学国際関係学部で教授を務めた富岡丈朗先生(1984年卒)が令和8年6月に逝去されました。心からお悔やみ申し上げます。

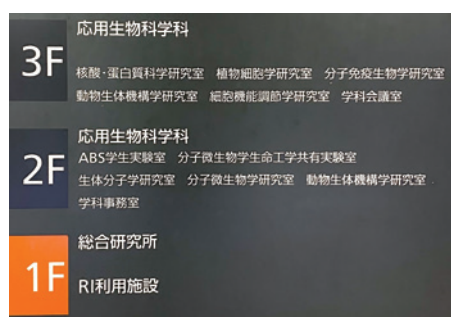
(山下 哲平)

応用生物科学科校友会

応用生物科学科

連絡先：生体分子学研究室
0466-84-3353 事務局長 明石 智義
E-mail: akashi.tomoyoshi@nihon-u.ac.jp

昭和 63 (1988) 年 4 月、応用生物科学科は湘南校舎 4 号館を拠点に、初代学科主任・室岡治義教授のもと第 1 期生を迎えました。国内の農学系学部では初めて「応用生物科学科」の名を冠した学科であり、第 1 期生は平成 4 (1992) 年 3 月に卒業、同年 4 月には大学院博士前期課程、平成 6 年 4 月には博士後期課程が設置されました。以来 38 年、6 研究室から始まった学科は 8 研究室体制へと発展し、4,000 名を超える卒業生を社会に送り出してきました。本年度、生物資源科学部の学科再編に伴い、令和 8 (2026) 年 3 月をもって最後の卒業生 137 名 (一部在学中) を送り出し、本学科はその歴史に幕を下ろします。この節目にあたり、開設以来の学科の歩みと校友会の活動を振り返りたいと思います。まずは、学科の



4号館エレベーター前

設立から今日まで教育・研究にご尽力いただいた教職員をご紹介します。

歴任教職員一覧 (順不同、敬称略)

教授 (23 名)

室岡 治義 (分子微生物学)
名取 正彦 (蛋白質科学)
安藤 忠彦 (核酸科学)
高橋 武美 (生体分子学)
小山 鐵夫 (植物細胞学)
和氣 朗 (動物細胞学)
中嶋 睦安 (分子微生物学)
佐藤 嘉兵 (動物細胞学)
井上 正 (核酸科学)
別府 輝彦 (生命工学)
綾部 真一 (植物細胞学)
高橋 秀夫 (核酸科学)
細野 邦昭 (核酸・蛋白質科学)
花澤 重正 (細胞機能調節学)
砂入 道夫 (分子微生物学)
青木 俊夫 (生体分子学)
上田 賢志 (生命工学)
司馬 肇 (張培淦, 核酸・蛋白質科学)
内山 寛 (植物細胞学)
加野 浩一郎 (動物生体機構学)
高橋 恭子 (分子免疫生物学)
高野 英晃 (生命工学)
明石 智義 (生体分子学)

准教授 (旧助教授) (5 名)

池田 和正 (生理機能科学)
岩淵 範之 (分子微生物学)
新井 直人 (核酸・蛋白質科学)
舩廣 善和 (核酸・蛋白質科学)
苦名 充 (細胞機能調節学)

専任講師 (5 名)

村田 稔 (植物細胞学)

土屋 徳司 (植物細胞学)
中西 祐輔 (分子免疫生物学)
沖 嘉尚 (動物生体機構学)
西山 辰也 (生命工学)

助手 (2 名)

岩淵 正明 (核酸科学)
古野 哲郎 (生体分子学)

副手・実習助手 (17 名)

五十嵐 由衣、市川 真衣、岩垣 志乃、
蝦名 佐和子、遠藤 慈子、太田 早紀、
小島 千恵、齊藤 奈央子、定野 友美、
島 由紀子、高橋 尚子、田中 聡美、
土岐 恵子、本多 紘子、松澤 昭恵、
矢部 智子、吉田 麻友

学科への支援事業

学科校友会は平成 4 (1992) 年、第 1 期生の卒業とともに発足しました。以来、新入生歓迎会やスポーツフェスタでの T-シャツ配布、卒業記念品の贈呈など、学生を支援する活動を続けてきました。平成 13 年には設立 10 周年祝賀会も開催しています。今年度は卒業記念品として全員に QUO カードを贈呈しました。なお学位伝達式では、KASHANI SEVDA さん、武藤有輝さん、井上彪雅さん、安井南さんの 4 名が、優等賞、学部長賞、優秀賞を受賞されました。

事務局より

卒業生の皆様との繋がりは、今後
も大切に続けていきたいと思ひます。
住所の変更、改姓、問い合わせ等ご
ざいましたらご一報下さいませようお
願ひ致します。

(明石 智義)



学位授与・伝達式の風景



学位授与・伝達式での賞の授与

くらしの生物学科校友会

くらしの生物学科

連絡先：くらしの園芸研究室

0466-84-3743 事務局長 新町 文絵

E-mail: brs.kurashi.ko-u@nihon-u.ac.jp

くらしの生物学科の近況

令和7年度末で、安齋寛先生が特任教授の任期を満了されました。長年のご指導と多大なるご尽力へ深く感謝申し上げます。

光澤浩先生も令和7年度末でご定年を迎えられましたが、引き続き特任教授として学部教育に携わっていただいております。

令和8年4月には、近藤春美先生が教授にご昇格されました。先生の今後ますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

また5月に学科事務室の巣籠和菜さんが付属施設事務課にご異動となりました。これまでのご尽力に深謝いたしますとともに、新天地での益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

くらしの園芸

新町文絵 教授

(学科責任者：バイオサイエンス)

水野真二 准教授 (アグリサイエンス)

動物のいるくらし

恒川直樹 教授 (獣医保健看護)

金澤朋子 助教 (動物)

くらしの微生物

光澤 浩 特任教授

相澤朋子 専任講師 (バイオサイエンス)

くらしのバイオ

炭山大輔 准教授 (環境)

食と健康

近藤春美 教授 (バイオサイエンス)

山下正道 准教授 (食品開発)

住まいと環境

小谷幸司 教授 (国際共生)

小島仁志 助教 (環境)

の11名 (括弧内は新学科での所属) で運営しています。学部改組に伴い、相澤先生と光澤先生は生命科学研究所3階に移動しました。

なお令和8年7月1日現在の在籍者数は、4年生2名、3年生1名の計3名です。全員が卒業するまで、しっかりと指導致します。

学科の活動として、2月17日に第8回の学科卒業研究発表会が対面形式で開催されました。4年生による79件の研究発表があり、全員が1分間で研究内容を口頭で紹介 (写真1) したのちに、ポスター形式で研究について発表 (写真2) し、各教員が所属する新学科の研究室所属3年生も参加して活発な質疑応答が行われました。合間には 卒業アルバム用に4年生全員の集合写真を撮影しました (写真3)。

3月24日には、学生食堂3階で卒業パーティーが開催され、4年間の思い出を語り合う和やかな会となりました。

続く3月25日の学科の学位記授与式は、体育館での学部全体での卒業式後に開催されました。学科責任者の新町先生から一人一人に学位記が渡され (写真4)、8期生79名が卒業し、新たに校友となりました。式典の後は、ようやく咲き始めた桜の下で、友人同士や研究室の仲間と記念撮影が行われていました。2月末における卒業後の進路は 66名が就職 (うち公務員2名) し、3名が大学院へ進学しました。

くらしの生物学科 校友会の活動報告

校友会から卒業生への卒業記念品として、令和7年度も卒業生のアルバム委員会を中心に卒業アルバムを編集し、卒業生全員に贈呈、学科に1冊を寄贈しました。

学部校友会より表彰

「BDL江戸前ちば海苔プロジェクト」がこれまでの活動により、くらしの生物学科、生物資源科学部、日本大学の名誉を高めたということで学部校友会から表彰されました。令和8年度総会に、小林想来さんがプロジェクトの代表として出席され、賞状と記念品が授与されました (写真5)。



学部校友会表彰 (写真5)

くらしの生物学科校友会事務局より

事務局への御連絡、および卒業時に届け出たメールアドレスや連絡先住所、勤務先、氏名などの変更がありましたら、事務局長までお願い致します。
(山下 正道)



卒業研究発表会での1分間の研究紹介の様子 (写真1)



卒業研究発表会でのポスター発表の様子 (写真2)



卒業アルバム用4年生の集合写真 (写真3)



学位記授与の様子 (写真4)

支部だより

宮城県支部の近況

連絡先 〒981-3212 仙台市泉区長命ヶ丘3-30-14
支部長：鎌田 雅敬 事務局長：早坂 睦雄
TEL携帯：080-5579-5456 FAX.022-378-6592
E-mail: mutsuo-hayasaka.1506@jcom.zaq.ne.jp

本会はR8年度で23周年を迎えました。

■R8.6.20. 仙台市内で第20回総会を「エル・パーク仙台」で、懇親会を「エスカイヤクラブ仙台店」で開催しました。会員5名の出席と、NU生物資源科学部校友会より北原幸典副会長、NU校友会宮城県支部より渡邊和幸支部長をはじめ芸術学部宮城江古田会桑折洋一会長、通信教育学部校友会宮城県支部田邊浩靖支部長、学部校友会山形県支部池田卓郎支部長と鈴木伸広幹事の来賓6名のご臨席をいただき審議され、R7年度決算及びR8年度計画予算について了承されました。懇親会では山形県支部の池田卓郎支部長の乾杯で始まり、歓談に入ってから各人3分間スピーチを行い、次の再会を楽しみに再開となりました。

■NU校友会宮城県支部役員会

R8.5.22.(金)「江陽グランドホテル」18:00 4Fで開催、鎌田支部長が出席。

■NU学部校友会本部通常総会・懇親会

R8.7.11.(土) 藤沢市六会・生物資源科学部本館NUホールAで13:30総会、16:00懇親会、鎌田支部長が出席。

■NU校友会宮城県支部総会・懇親会

R8.7.29.(水)「江陽グランドホテル」18:00総会、19:00懇親会。鎌田支部長が出席。

■宮城県支部開催「第7回仙山交流会」

R8年度開催について検討中。

■NU学部校友会山形県支部総会・懇親会

R8.10.3.(土) 山形市内で開催。出席者：鎌田支部長、小松尚斗監事出席。

■NU学部校友会宮城県支部役員会会員交流会

R8.11月28日(土) 12:00頃開催。仙台市周辺。

■NU校友会宮城県支部R9年新年名刺交換会

R9.1月開催予定。

■ローカルトピックス

『ブルーインパルス 道の駅にて展示開始』

三陸縦貫自動車道を仙台市内から東へ向かって走ると、視界に広々とした田園風景が見えてきます。その青い大空には、時折ブルーインパルスの訓練飛行中の機影と遭遇することができます。「ブルーインパルスのまち」として知られる宮城県東松島市の「道の駅東松島」に令和8年2月27日から一般展示されている機体があります。引退した5番機で、時折その上空には訓練中の六機編隊を見ることができ、それを目当てに老若男女、多くの人々が訪れています。ブルーインパルスの訓練飛行は、HPを参照の上お出かけください。

■会員の状況(R7年現在29名)

※卒業生・富嶽会1名・紫友会1名・角笛会1名・満喜葉会3名・いもづる会5名・あすなろ会3名・桜水会2名・工学会5名・FT会2名・拓友会2名・湘南校友会1名・賛助会員：提携校東北高等学校

(文責者 早坂睦雄)



総会集合写真



展示機体



見物客

支部だより

山形県支部の近況

連絡先 〒990-2433 山形市鳥居ヶ丘4-55
 日本大学山形高等学校 小嶋 佑治
 TEL.023-641-6631 FAX.023-641-6634
 E-mail: kozima.yuji@nihon-u.ac.jp

■第31回生物資源科学部校友会

山形支部総会

令和7年11月15日(土)、山形国際ホテルを会場に第31回目の記念総会を会員14名の参加と、来賓として生物資源科学部林学科より杉浦克明先生、日本大学山形高等学校事務長の佐々木吉信氏、日本大学校友会山形県支部長の篠原みゑ子氏、日本大学校友会各学部の県支部長8名にご臨席を頂き開催されました。

《記念講演》

杉浦克明先生より、演題『自然と未来をつなぐ学び 新しい生物資源科学部の魅力』と題し記念講演をいただきました。生物資源科学部に進学

を予定している日大山形高校の生徒7名も聴講しました。

その後、学部の現況報告をお聞きし、杉浦先生から池田支部長へ記念事業補助金の贈呈がありました。

《懇親会》

来賓を代表して校友会山形県支部長の篠原みゑ子氏のご挨拶をいただき、歯学部校友会山形県支部長の成原雅道氏の乾杯で懇親会がスタートしました。恒例による学科単位で登壇しての近況報告、最後は皆で声高らかに校歌斉唱で盛り上がりしました。

■会員紹介

食品ビジネス学科 令和元年卒

大江 小百合

「食を通じて人とつながり、幸せや感動を届けたい」。そんな想いから六次産業に興味を持ち、食品ビジネス学科で、生産・加工・販売まで幅広い視点から「食」について学びました。大学で過ごした4年間は、現在の仕事につながる大切な原点となっています。

卒業後は、父が手掛けるフードビジネス事業に携わり、東京での勤務を経験した後、コロナ禍を機に地元・山形へ戻りました。現在は「山形蕎麦の焰藏」「焼肉べろきん」「CHEz Le Pain」

の3店舗を統括するマネージャーとして、店舗運営をはじめ、商品開発や人材育成などに取り組んでいます。

コロナ禍という未曾有の状況を経験する中で、改めて実感したのは、生産者や仲間、そしてお客様との「つながり」の大切さです。私たちが何より大切にしているのも、「顔の見える食材」と、その背景にある作り手の「想い」です。

山形蕎麦では、提携農家の方々に山形県の在来品種「最上早生」を育てていただき、自社で製粉し、店舗で職人が手打ちで仕上げています。一杯の蕎麦を通して、食材のおいしさだけでなく、生産者の情熱や山形の風土、受け継がれてきた食文化まで届けていきたいと考えています。

山形には、蕎麦をはじめ、米、山形牛、果物など、全国、そして世界に誇れる豊かな食があります。大学で学んだ「食」を原点に、これからも生産者とのつながりを大切にしながら、山形の食文化を次の世代へ伝承・継承し、新たな価値を生み出していきます。そして「食」を通じて山形の魅力をより多くの方へ届けられる存在として、これからも歩んでいきたいと思っています。(幹事長 渡部秀実)



講演会の様子



集合写真



山形蕎麦「焰藏」



CHEz Le Pain



「焰藏」板そば

支部だより

神奈川県支部の近況

連絡先
日本大学生物資源科学部 食品開発学科内
〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野 1866
事務局長：鳥居恭好（食品資源利用学研究室）
E-mail: torii.yasuyoshi@nihon-u.ac.jp

神奈川県支部では、母校生物資源科学部からお借りしている約60坪の農地を活用し、会員による野菜づくりを続けています。現在は毎回6名（うち女性3名）ほどが参加し、毎週火曜日と土曜日の週2回、それぞれの経験を生かしながら農作業に取り組んでいます。

畑は会員同士の近況報告や情報交換の場にもなっています。

今年度もナス、キュウリ、タマネギ、ジャガイモ、スイカなど、多くの作物を収穫することができました。苗づくりから定植、水やり、除草、害虫対策、追肥まで、栽培には数多くの手間がかかります。特に真夏の炎天下での作業は体力を要しますが、手をかけた作物が順調に育ち、苦労した分だけ、収穫できたときのうれしさも格別です。

写真1は、収穫した大玉スイカを囲む会員の皆さんです。

現在は夏野菜の収穫を終え、毎年恒例の「新そば打ち試食会」に向けてそばの種まきを済ませたところです。

写真2は、そばの種まき前の耕運作業の様子です。秋には収穫したそばを会員自ら製粉し、そば打ちを楽しみながら交流しています。

試食会は支部を代表する行事として定着しており、毎年大きな楽しみとなっています。

当支部では、藤沢を中心とする湘南地域の立地を生かし、農作業と箱根駅伝応援を活動の柱として長年取り組んできました。支部総会や懇親会、そば打ち試食会、箱根駅伝応援などの行事を通じて校友同士の親交を温めるとともに、地域や母校とのつながりを大切にしていきたいと考えています。

写真3は、箱根駅伝応援後の新年会で歓談する神奈川県支部会員の皆さんです。

これからも畑づくりやそば打ち、箱根駅伝応援といった活動を続けながら、新しい仲間を迎え、楽しく交流できる支部でありたいと思っています。畑仕事に興味のある方、そば打ちを一緒に楽しみたい方はぜひご参加ください。神奈川県支部一同、新しい仲間との出会いを楽しみにしております。

（支部長 稗貫 峻）



写真1



写真2



写真3

満喜葉会 会長時代を振り返って

校友会の思い出

私は、昭和53年畜産学科卒業です。所属した研究室は第二飼養学研究室で反芻家畜の栄養試験が卒論のテーマでした。当時は、周りに就職活動などするようなものも居らず、自分の好きなことだけに没頭していました。社会に出てから好きなようにやってこられたのは満喜葉会の諸先輩や後輩達に助けられたからだと常に支援に感謝しております。



写真① 学生時代

令和2年に満喜葉会副会長になり、初めて生物資源科学部で何が起っているか何となくわかるようになってきました。学部改組の計画があることを知り、動物資源科学科(旧畜産学科)が動物学科に代わるということが伝わってきました。名称の変更ということで役員一同大きな変更はないものと思っていました。ところが、入試要項が配布され明細を確認した

ところ動物資源学科はバラバラに分解され動物学科とは博物・理化学に特化した畜産物生産とは一切関係のない学科になっていました。畜産系として残っているのは飼養学研究室と動物生殖学研究室それに食品開発学科扱いになりましたがミルク科学研究室です。動物育種学研究室、畜産経営学研究室と草地学研究室は廃止になりました。

令和5年に推薦され満喜葉会長に成りました。会長になって最初に考えたのが畜産学科の復活です。副会長と一緒に市ヶ谷駅で下車し九段の大学本部に行き学長に直談判しました。学部の改組により畜産系の学科が無くなる事態になっていることを訴えました、さらに私学助成金も打ち切られているので畜産系の研究室や教員のリストラが心配だと訴えました。この時、文科省に改組は承認され4年間は何もできない、その間に「君達の出来る全てのことをしておきなさい。」と言われて帰って来たのを思い出します。そして、理事長にも嘆願書を出しましたが実際の面談は叶いませんでした。そうこうしている間に、残された動物資源科学科と分割されたそれぞれの新学科の授業が始まり教員の忙しさは満喜葉会校友会関係の作業に振り向けられる余裕は無

くなっていました。満喜葉会の事務局や会計は学内関係者でなくては出来ないのでは、お受けいただいた教職の方々には本当に感謝しております。この間に何回

も役員会を開催しました。そして将来の満喜葉会について3つの案が出されました「①従来の満喜葉会を存続させる。②満喜葉会の名前を残せずとも他学科と関係性を残し大学との関係性を残す。③単なる卒業生の同窓会として残す。」です。①は満喜葉会の人事を尽くしても天命を待つしかありません。②については、分断された畜産系を持つ学科に満喜葉会の名前は出さずとも満喜葉会の校友会メンバーを取り込んでもらい、そして学部との繋がりを残したいというものです。しかし、どの学科も今後校友会を持たないと結論付けられてしまい断念しました。満喜葉会には③の選択肢しかないのではないかということになりました。令和8年6月6日の満喜葉会総会に31人の役員達が集まり議論した結果は③の同窓会として残すことに決まりました。満喜葉会会員は昭和23年に始まり令和8年の131人の卒業生で最後となりました。現在、満喜葉会は学部校友会の組織上は校友会準分会ですが、新たに約8千人の同窓会としてスタートします。学部との絆修復の可能性が有ればこれからは最善を尽くします。

私は、満喜葉会の会長を勤めさせていただいた間、学友のネットワークが全世界に張り巡らされていることに改めて気付かされました。後輩の学生には将来を考える一助として、私の体験を通して見た畜産の素晴らしさを特別講義の場を借りて何度かお話をさせていただきました。今後もこのような活動の機会が有れば身を惜しみなく行ってゆくつもりです。(植村 光一郎)



写真② 台湾で行われた和牛輸出プロモーション

台湾のテレビ局全局取材 観衆500人以上の前の大舞台。農獣医学部卒業のメイさんの応援を頂きました。



写真③ 学部から駅協の3次会に向かう気持ちの若くなった役員達
満喜葉総会に3次会に向かう役員達。講堂での会議、学食での懇親会、そして駅に向かう姿は当時の若い学生時代そのもの

学部校友会事務局からのお知らせ

1 卒業生の動向について

平成 28 年度から令和 7 年度までの 10 年の年度別卒業生数及び延べ卒業生数は次表のとおりです。

(単位：人)

区 分	H 28 年度	H 29 年度	H 30 年度	R 元年度	R 2 年度	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度	R 7 年度
卒 業 生 数	1,675	1,704	1,799	1,670	1,566	1,557	1,589	1,537	1,538	1,556
内 学 部 生	1,603	1,614	1,715	1,581	1,480	1,482	1,520	1,443	1,443	1,473
訳 大学院生	72	90	84	89	86	75	69	94	95	83
延べ卒業生数	98,621	100,325	102,124	103,794	105,360	106,917	108,506	110,043	111,581	113,137

2 藤桜祭の開催について

令和 8 年度の藤桜祭は、10 月 24、25 日(土、日)の両日学内で開催されます。

学部校友会では、事務局会議室(2 号館 2 階)を休憩場所として開放しておりますので、お気軽にお立ち寄りください。お待ちしております。

3 通常総会及び懇親会の開催について

通常総会及び懇親会は、毎年 7 月の第 2 土曜日に開催します。

令和 9 年度は以下のとおり開催します。

(1) 通常総会

ア 日 時：令和 9 年 7 月 10 日(土) 午後 2 時から

イ 場 所：日本大学生物資源科学部 本館 NU ホール A

(2) 懇親会

ア 日 時：同日 午後 4 時 30 分から

イ 場 所：日本大学生物資源科学部 食堂棟 3 階

なお、令和 8 年度は、令和 8 年 7 月 11 日に開催しました。

◎ お問い合わせ

掲載記事の内容に関するお問い合わせ、住所変更の届け出、ならびに今後の会報発送不要等のご連絡は、各学科校友会および都道府県支部の記事掲載ページに記載されている「連絡先」までお願いいたします。

◎ 編集後記

関 泰一郎 前学部長は、6 月 24 日付で退任され、同日付で日本大学理事長に就任されました。これに伴い、令和 8 年度(第 79 号)学部長の「ご挨拶(巻頭言)」は割愛させていただきます。

現在、学部長席は空席となっており、同日付で磯部次長が学部長代行に就任されました。なお、新学部長は 11 月に就任の予定です。

令和 8 年度の
役員名簿はコチラ



発行所

日本大学生物資源科学部校友会 〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野1866

印刷所：(株)デイ・エム・ピー 〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町 561